

<会員による自著紹介>

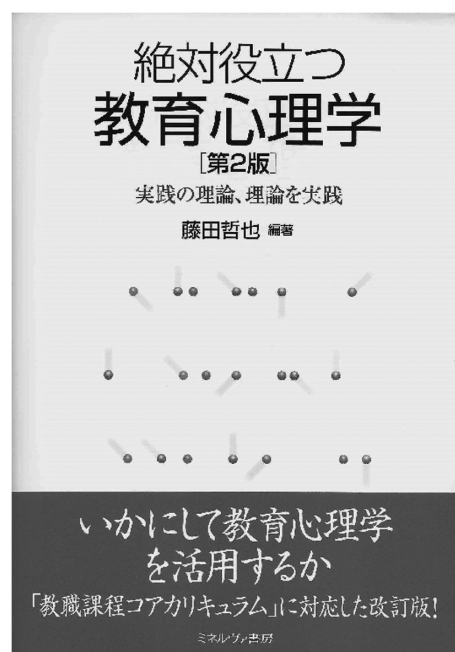
絶対役立つ教育心理学 [第2版] —実践の理論，理論を实践—

藤田哲也 (編著)

法政大学

ミネルヴァ書房 (2021 年発行)

定価 2,800 円 (税別)



本書は2007年に刊行された「絶対役立つ教育心理学」の増補改訂版である。第1版のときから、大学・短期大学の教職課程において必修とされている「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程に関する科目」で使われる教科書としてだけでなく、同科目を履修している「必ずしも教員を目指さない学生」にも役立つ内容を目指して編集してきた。すなわち、「教員になってから絶対役立つ」だけでなく、「現在大学で学んでいる、学生自身にも絶対役立つ」と受け止められるよう、基礎的な教育心理学の理論や知見を網羅しつつ、それらを応用する視点を具体的に示した本である。そうした企画趣旨が広く受け入れられて、第1版は刊行後12年のうちに20刷を数えるほどに好評を得た。そんな折、2017年11月に文部科学省から、大学の教職課程で共通的に修得すべき内容として、「教職課程コアカリキュラム」が公表されたのを好機と捉え、「学習集団づくり(元会長の安永悟先生執筆担当)」と「学習評価(筆者が執筆担当)」の章を追加し、既存の章についても加筆修正を行ったのが本書である。

ご存じの通り大学教員になるためには教員免許は不要であり、多くの教員は教職課程に身を置くことがなかっただろうと推察するが、「教えることに関する理論や実践的知識」を知らなくてもよいわけではないだろう。上記の通り、本書の内容は「大学で学ぶ学生にとっても絶対役立つ」ものであるから、当然のことながら、初年次の学生にとっても有益であると同時に、初年次生を担当する教員にとっても、「大学での学び」を教える上での示唆に富むものであろうと確信している。実際、筆者が新たに学習評価の章を執筆する際には、筆者が担当している大学での授業(初年次教育を含む)での実践に基づいて内容を精選し、より具体的に「絶対役立つ」内容になったと自負している。ぜひ、ご一読いただければ幸いである。